

報道関係者各位

クマに対する県民への注意喚起について

春を迎え、行楽や山菜採りなどで山に入る方も増えてますが、この時期はクマが冬眠から覚め、活動が活発になる季節でもあり、クマに出合う危険性が高くなります。

今年も既に6件の目撃事例（4月9日時点）があるほか、過去には、山菜採りや溪流釣りに出かけ、クマと遭遇した県民が大怪我を負う事故も発生しています。

人身被害の防止に向け、下記を参考に、県民に注意を喚起してくださるよう御協力をお願いします。

記

- クマから見れば、森林は自分の領分。人は侵入者だということを忘れずに、周囲に十分注意してください。
- 音の出る物で、人の存在をクマに知らせましょう。
- 子連れのクマに注意してください。
- 食べ残しやゴミを山に残さないでください。
- 万一、クマに出合ったら、走って逃げたりせず、ゆっくり後退してください。

- ・ 行き慣れた山も、クマから見れば、自分の領分だということを忘れないでください。冬眠から覚めたクマは、芽吹いた山菜類を探して動き回ります。山菜を探すのに夢中で、周囲への注意が散漫になると、突然クマと遭遇することになります。
- ・ クマも食べ物探しに夢中になって、人の接近に気がつかない場合があります。山に入るときは、ラジオやクマ避けの鈴、笛など、音の出る物を持って入りましょう。
- ・ 特に子連れの母グマは非常に神経質で危険です。絶対に近づかないでください。子グマを見たら、近くに母グマがいると思ってください。周囲に注意しながら、できるだけ早く遠ざかりましょう。
- ・ 山菜採りなどで食べ残しやゴミを山に残してくるのは、クマを呼び寄せる大変危険な行為です。食べ物や食べ物の包装（ガムなどの包み紙も含む）などのゴミは必ず持ち帰ってください。

（参考）山形県内におけるクマによる人身被害の状況

令和2年度 5件（5人）

令和3年度 0件（0人）

令和4年度 2件（2人）

※別添チラシを参照ください。

Carbon Neutral Challenge
～生物多様性を守ろう～

（担当） 環境エネルギー部みどり自然課
課長補佐（野生生物対策担当） 鈴木
TEL：023-630-3042
〔報道監〕 環境エネルギー部次長 荒木